

# 会員相互の和を大切に

協和会自治会 会長山田智好

協和会自治会は、下新倉2〜3丁目及び4丁目の世帯の会員を有する和光市の戸建て住宅で最も



200人以上が参加する防災訓練

大きな自治会であり、設立以来約60年の歴史があります。古くから農業が営まれていた地域（昔は「谷戸」「中新田」「仏の木」と呼ばれた地域）ですが、近年人口の増加と宅地化が著しく進み、古くからこの地域に住む会員に加え、新たに住居を構えた会員が数多く混在する地域となつていきます。また、この地域の土地区画整理事業により、新たな道路や住宅ができるなど景観もだいぶ変化しています。

活動内容は、年間の事業計画に基づき、納涼盆踊り会（7月・今年は電力事情により中止）、敬老事業（9月）、自主防災訓練（10月）、レクリエーション（12月）、新年会（1月）など協和会独自活動の他、ごみゼロ運動、募金活動、市民体育祭参加、防犯パトロールなど、和光市全体の活動にも積極的に参加しています。

協和会自治会が誇れるものとして2つあります。一つ目は、長い伝統のある「納涼盆踊り会」です。和光市内の婦人会の皆様のご協力を得ながら踊りますが、1000人を超え、人出のある大きな行事です。その舞台となる櫓は、昔ながらの丸太で組んだものです。6m四方の舞台と高さ7mの櫓。その上で和光太鼓が鳴り響く光景は素晴らしいものです。一つ目は、「ささら獅子舞」です。大獅子、中獅子、雌獅子の獅子頭を使い、太鼓をたたき水引幕をひるがえして舞います。保存会により、昭和40年から復活して、自治会もその保存に協力しています。

こうした歴史と伝統のある協和自治会ですが、今年には東日本大震災という未曾有の災害もあり、私たちにとって防災対策は重要な課題だと考えます。地域の皆さんの安心・安全のための防災・防犯を重点に、いざという時自治会がその力を発揮できるように、会員相互のつながりを大切にしながら、自治会運営をしていきたいと考えています。